

## お台場を見守る[海01]

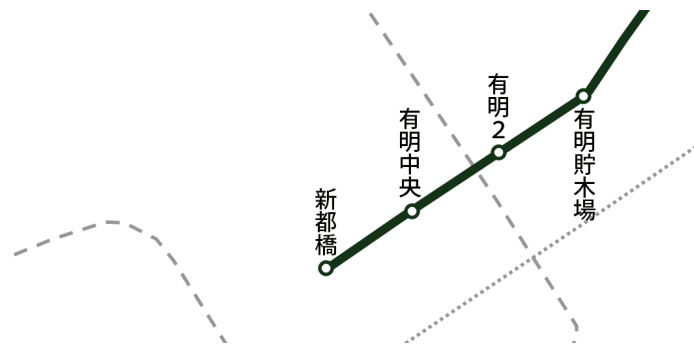
現在、お台場の基幹路線として、また通勤・通学路線としても活躍している[海01]（門前仲町～東京テレポート駅・東京ビッグサイト）。元々はレジャー路線として誕生した系統（高速道経由の項を参照）で本数も少なかったが、[門19]グループを吸収して、平日昼間でも10分間隔という基幹路線へと成長していった。ここでは、まだお台場の開発が影も形もなかった前身の時代から、開発とともに路線を拡大してきた[海01]の歴史を追うことにする。

### 1. 開発前夜（昭和39年～昭和49年）

有明に最初にバスが通ったのは昭和39年1月のことである。長らく東雲都橋を終点としていた[19]（東京駅南口～東雲都橋、後の[東19]→[門19]）が延長され、有明町一丁目・二丁目・三丁目・四丁目の4停留所が増設された。終点の有明橋四丁目は現在の有明テニスの森交叉点から少しお台場へと進んだ、有明スポーツセンターの前に終点が設けられた。道路自体は戦前からあったようだが、バスが通ったのはこのときが初めてである。

昭和44年頃には住居表示に伴い、有明町一丁目→有明貯木場、有明町二丁目→有明二丁目、有明町三丁目→有明中央、有明町四丁目→新都橋へとそれぞれ改称された。貯木場はともかくとして、有明中央はつけた意義が不明である。

終点の新都橋は、R357の北側（新木場方面）に架かる橋の名前である。終点からは多少離れているが、適当な名前がそれくらいしかなかったのだろう。



▲昭和44年1月の路線図（点線はりんかい線、破線はゆりかもめ）

### 2. 船の科学館の完成（昭和49年～54年）

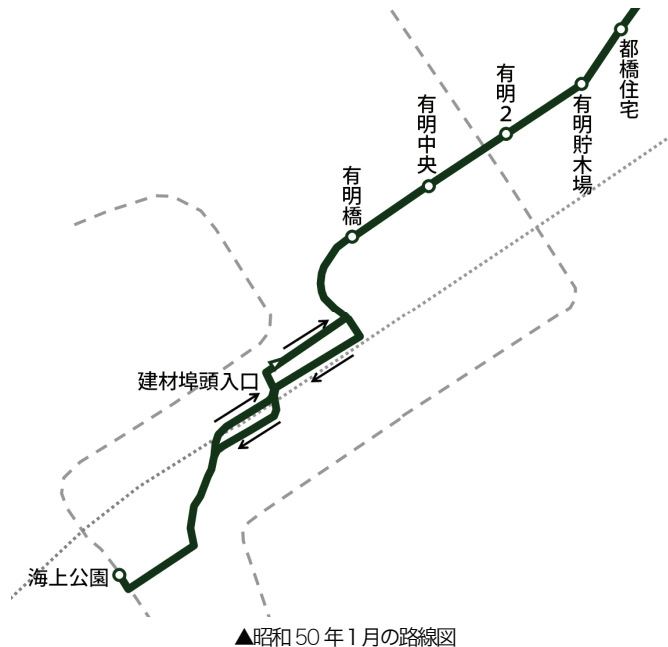
昭和49年7月、十三号埋立地（現品川区東八潮）に船の科学館が開館する。実物の船を展示するなど、海事に関する本格的な展示が行われる博物館であった。ほぼ同時の昭和49年6月に[東19]、門前仲町～新都橋～海上公園が開通し、この科学館のアクセスにあたった。現在のお台場とは違い回りには何もなく、しかもアクセスは門前仲町側からのみ（首都高湾岸線の大井Jct～13号地出入口が開通するのは昭和51年8月）と、まさに陸の孤島と呼ぶにふさわしい場所であった。

開通と同時に新都橋から有明橋停留所に改称された。有明橋は新都橋の反対側、R357の大井方面に架かる橋の名前である。しかしながら改称した理由はさらに不明である。

新都橋から先の経路であるが、図を見ても分かる通り、今とは全く違う経路である。まず、有明橋を出た後は、現在の有明清掃工場やスポーツセンターの敷地内を運河に沿って仮道が存在し、作りかけのR357へと接続されていた。

また、当時の地図を見る限り、R357はこの時点では現在の東京テレポート駅上に架かる巨大歩道橋までしか完成しておらず、そこからは斜めに突っ切る仮設道路を経て船の科学館へと達していた。ちょうど今の東京テレポート駅を突っ切る形だが、これらの道路は今も影も形もない。

途中には「建材埠頭入口」停留所が新設された（門前仲町方面のみ）。今、建材埠頭と言うと若洲か城南島のことを指すが、当時は青海埠頭のことをそう呼んでいたのかもしれない。



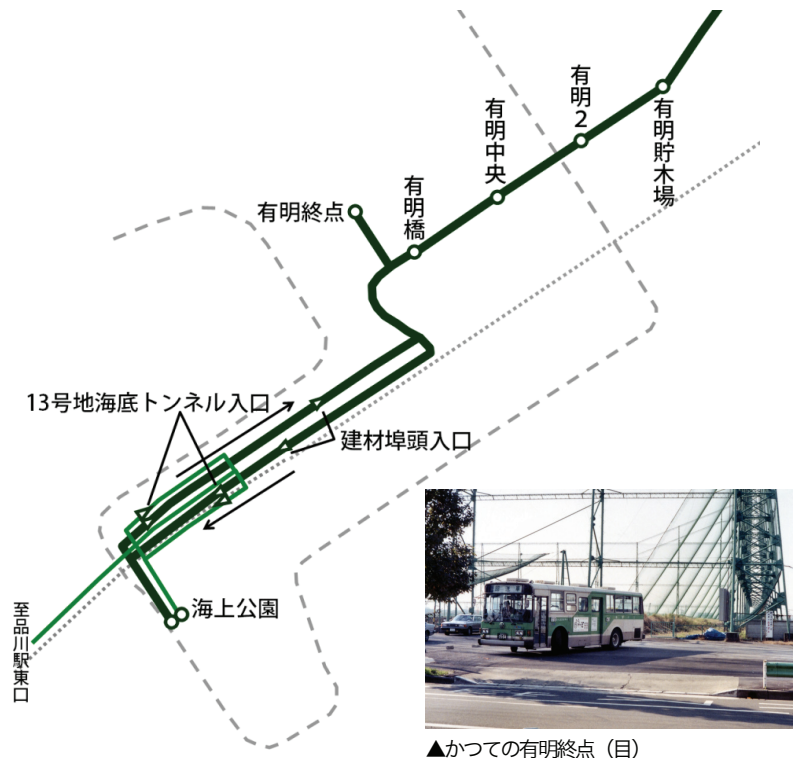
▲昭和50年1月の路線図  
終点停留所だが、名前は「海上公園」になった。海上公園は一般名詞で、ここ以外にも東京湾のあちこちに存在するが、船の科学館停留所にならなかったのが不思議である。

### 3.[海01]、開通！（昭和54年～57年）

そして2年後、昭和51年8月にお台場の部分のR357が完成し、[東19丁]はR357経路に変更され、建材埠頭入口は両方向停車になり、従来の仮道は程なくして閉鎖された。昭和54年の時点では既に跡形もなくなっている。R357をまっすぐ進んで突き当たりの潮風公園を左折し、海上公園終点となるように変更された。直後の10月に[東19]グループは全て門前仲町発着に短縮され、[門19]に変更された。

さらに昭和53年に現在のお台場で宇宙博覧会が開催され、品川駅東口～海上公園に臨時バスが走った。これが[海01]の始まりである。詳しくは首都高経由の路線の項を参照されたいが、これが昭和54年1月に定期化されて[海01]が走り始めた。お台場には新たに「13号地海底トンネル入口」停留所が新設された。首都高から出るときは、UターンしてR357に入り13号地海底トンネル入口に停車、入るときもR357からUターンという経路をとっている。

また、昭和50年代前半には[門19甲]（門前仲町～有明橋）が「有明終点」まで延長された。有明橋から右折し、倉庫街の行き止まりの路地に終点が設置された。当時の周囲にある施設は晴海ゴルフセンター（後の東京スポーツセンター、平成11年閉鎖）くらいであった。



▲かつての有明終点（目）

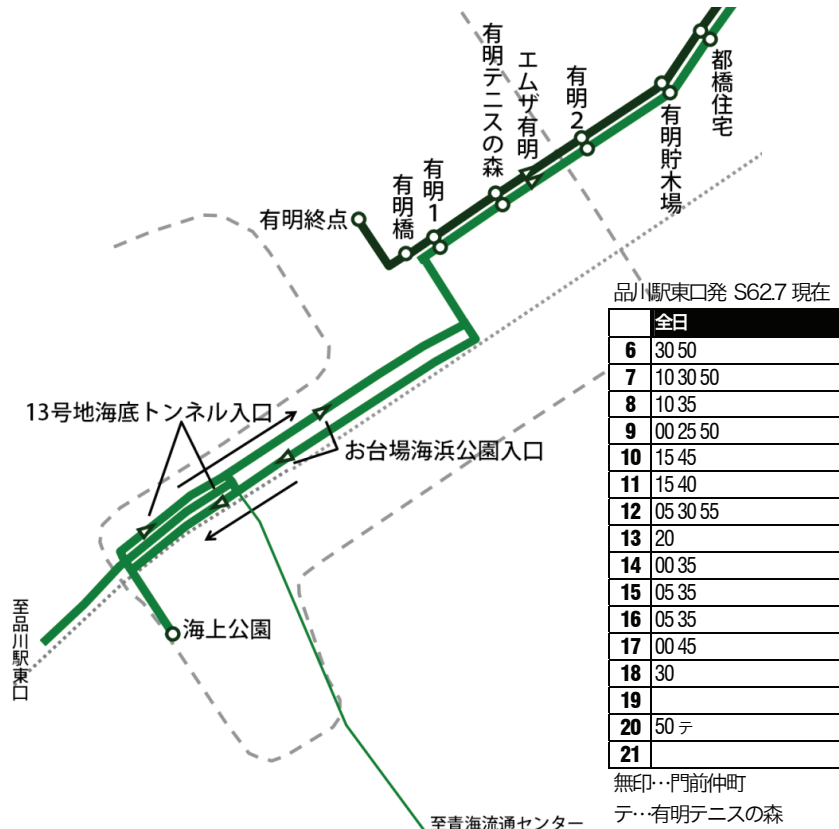
▲昭和56年12月の路線図

### の拡大（昭和57年～平成5年頃）

[海01]に変化が訪れたのは昭和57年12月の改編のときである。路線廃止や短縮が多い中で、[門19丁]を統合して門前仲町～海上公園～品川駅東口という路線に拡張された。もっとも、ルート自体には変更はなく、海上公園の行きと帰りで13号地海底トンネルに2回停車するようになった。同時期に建材埠頭入口は「お台場海浜公園入口」に改称された。昭和58年7月には深川営業所が参入して、2営業所体制になった。

昭和62年3月には、現在の有明一丁目からフェリー埠頭入口へと抜ける道路に経路を変更し、

有明橋停留所は[門 19 甲]のみ停車の停留所となった。同時期に[海 01]での有明終点方面へのアクセスとして有明一丁目停留所が新設されたほか、存在自体がバブル期を思い出させるエムザ有明（現、格闘技場ディア有明、有明コロシアム停留所）停留所があったのも懐かしい。



▲平成元年4月の路線図

昭和 63 年 6 月の有楽町線新木場延伸改編では、一気に深川営業所の受け持ち分が増え、品川駅東口～有明テニスの森・深川車庫等の枝系統が誕生し、バリエーションが一気に豊になった。また、朝夕のみの限られた本数ではあるが[海 01 乙]門前仲町～青海流通センターが新設、一気に青海埠頭の先まで路線が達した。現在のテレコムセンター駅付近では[海 01 乙]は坂を上り台場大橋という名の橋を渡っていた。現在では埋め立ても完了し、橋も痕跡もなく消えてしまったため、かつて橋があったことを知る人は少ない。

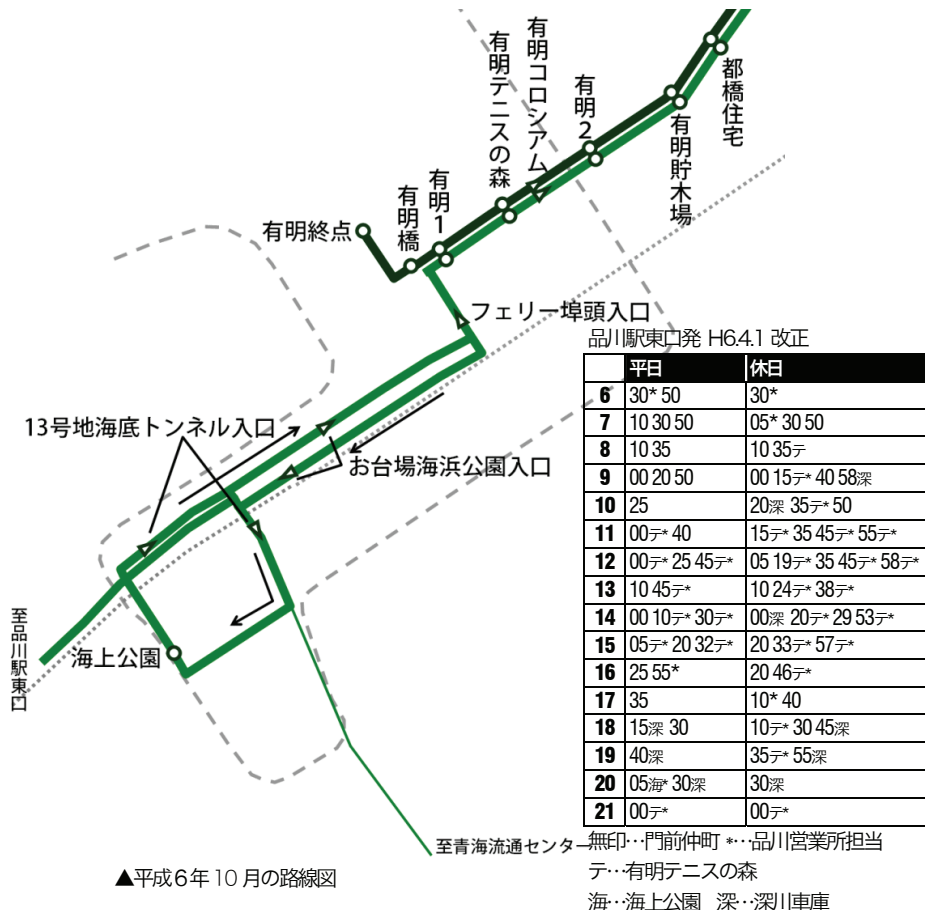
また、この改編と同時期に現在の有明クリーンセンター停留所の位置に「フェリー埠頭入口」停留所が新設された。位置の関係で片方向のみである。[海 02]（新木場駅～フェリー埠頭）にも同名の停留所が開設されたが、双方の位置がかなり離れているのは気にされなかったようだ。

## 5. お台場の開発が進む(平成5年頃～7年)

お台場の開発の起爆剤と期待されていた都市博が開催決定され、少しずつお台場も開発が進んで

きた。新交通「ゆりかもめ」と第三セクター「りんかい線」が営業に向けて建設が進む中で、[海01]は海上公園付近で経路変更を行った。図のように一方向循環にするというもので、13号地海底トンネル入口停留所は現在の東京テレポート駅入口付近に移設された。

平成に入ってから、昼間は品川駅東口～有明テニスの森、門前仲町～海上公園という折返し運転が多くなり、通し便の運転は1時間に1本程度になっていたのが興味深い。特に休日は行楽対応か本数も多かったが、折返便の割合も多かった。実際の旅客流動に合わせたものだったと思われる。



## 6. [門19]を吸収しきって(平成7年～8年)

平成7年4月に、ついに[門19 甲]は廃止され、全て[海01]に吸収されることとなった。有明終点・有明橋は廃止され、新たに[海01]門前仲町～有明一丁目という折返系統が新設された。有明終点のあったところはしばらく駐車場としてそのまま使われていたが、その後は中古車販売場オートメツソ・タックスお台場に化け。今では面影はほとんどない。

また、同年10月には新交通ゆりかもめ(新橋～有明)の開業に合わせ、現在と同じようなテレコムセンター駅経由の大回りに変更された。しかし、海上公園までノンストップというのは相変わらず

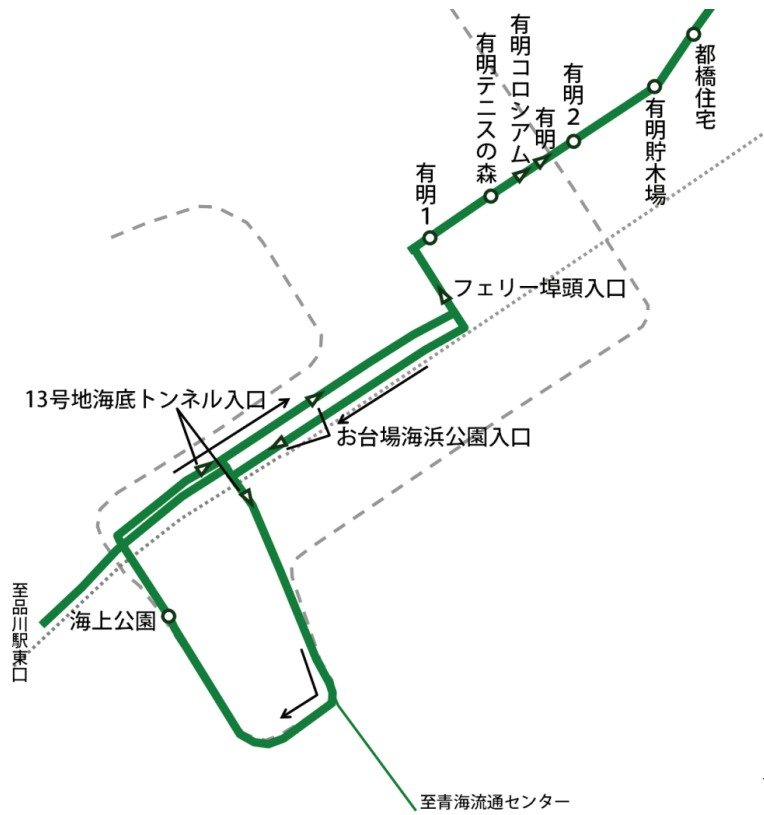
らずで、テレコムセンター駅などの停留所が設置されるのはもう少し後のことである。

## 7. りんかい線が開通（平成8年～9年）

平成8年3月に、お台場を貫通する鉄道「りんかい線」の第一期分（新木場～東京テレポート）が開通した。これと同時に、お台場では大規模な改編が行われた。[海 01]についても大きく変更された。主な点としては、①R357 からゆりかもめ下の道路に経路変更、②お台場地区への停留所増設、③朝夕を除き東京テレポート駅で路線を分断、④東京テレポート駅をターミナルとし、[海 01 乙]を東京テレポート駅発着に短縮、⑤東京ビッグサイトの折返

線を追加の5点である。①②により、海上公園は船の科学館に改称され、他にもテレコムセンター駅、潮風公園入口、台場駅、お台場海浜公園駅の各停留所が誕生した（フジテレビは遅れての設置）。経路は有明テニスの森からそのまま直進するよう変更され、こまめに客を拾うことが可能となった。ちなみに元の有明橋停留所の場所は再び通過するようになったのだが、今度は停留所が新設されることはなかった。

R357 からは本線は撤退したのだが、前述の門前仲町～有明一丁目の折返系統がそのまま東京テレポート駅まで延伸された。ここで面白いのは、テレコムセンター駅経由にはせず、台場駅を出る



▲平成7年10月の路線図

品川駅東口発 H8.3.30 改正

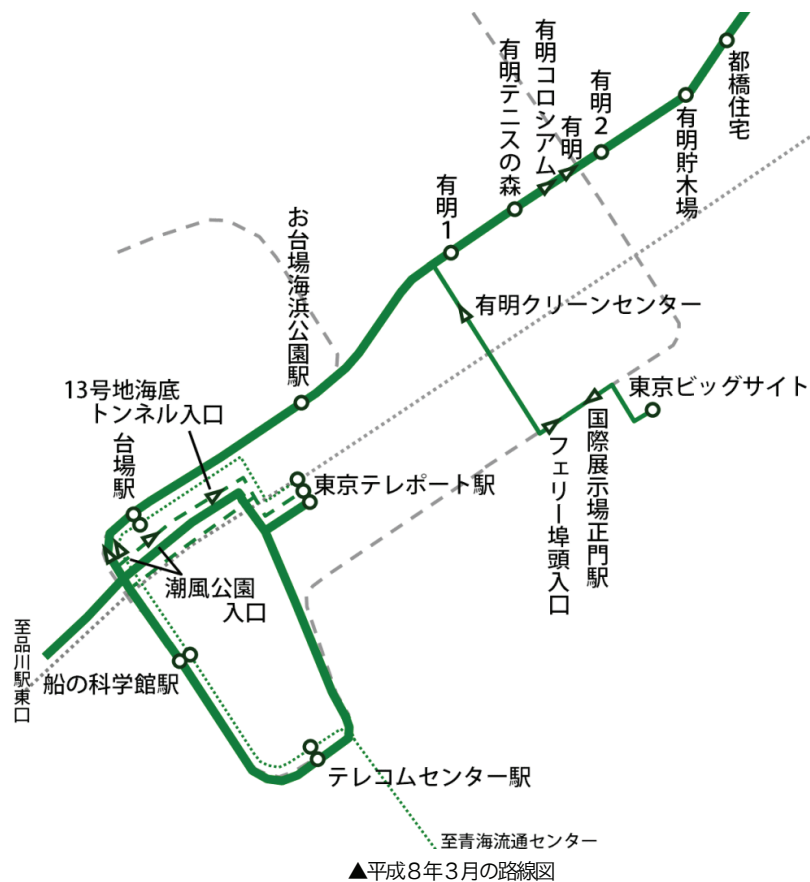
	平日	土曜	休日
6	30* 50*	30* 55*	30*
7	20 35 55レ*	27 56レ*	05レ* 30
8	15 53レ*	06 45レ*	03 08レ* 41レ*
9	15* 30レ* 50豊	08* 33レ*	20*
10	10 30豊	15	12 25レ*
11	00* 45レ*	02* 45レ*	13* 35レ*
12	35 50レ*	28 50レ*	45レ* 56
13	45*	40*	21* 55レ*
14	05レ*	00レ*	30
15	10 15レ*	05レ* 25 56*	09* 50レ*
16	05* 20レ*	20レ*	18 50レ*
17	33	15	25
18	30*	30* 45レ*	00レ* 15深 30*
19	15深	05	05レ*
20			
21	00レ*	00レ*	00レ*

無印…門前仲町 \*…品川営業所担当

レ…東京テレポート駅 豊…豊洲駅 深…深川車庫

と左折してR357に入りすぐの所に「潮風公園入口」を新設し停車、フジテレビの裏の13号地海底トンネル入口に停車し、そのまま東京レポート駅を終点としたことである。まだテレコムセンター駅側の需要が低いと考えられていたのかもしれない。ただし大井方面の13号地停留所は復活せず、東京レポート駅を出ると次は潮風公園入口となった。

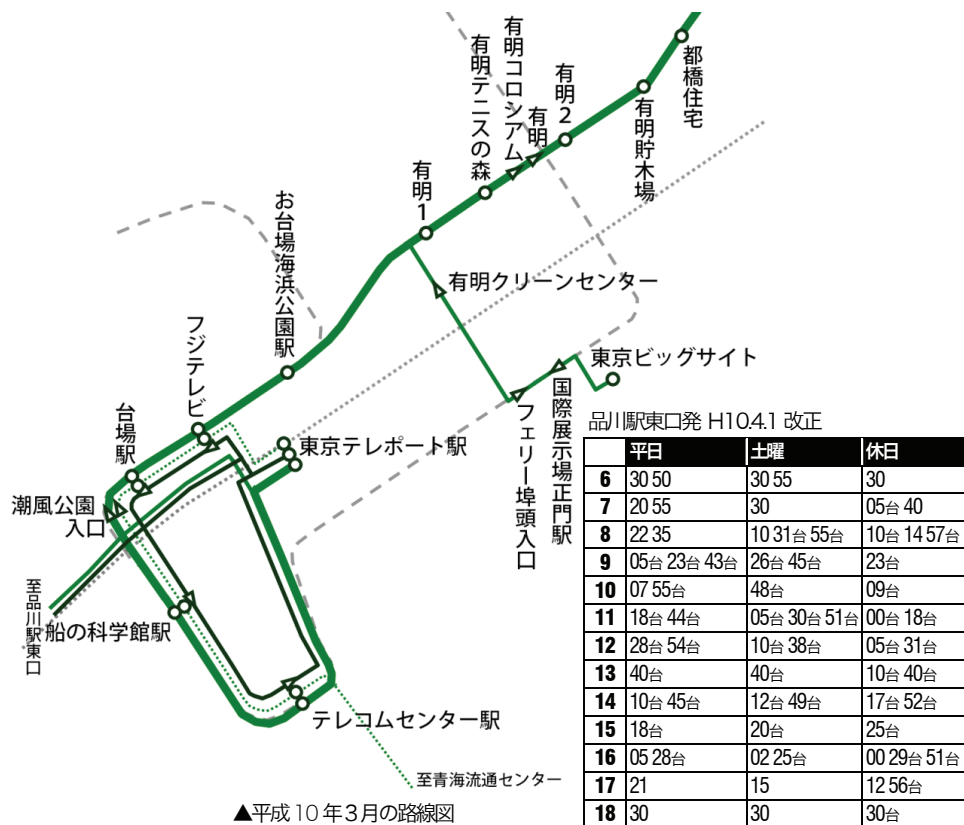
また、③により、ダイヤも白紙改正され、品川駅東口側については大幅に本数が減り、終日にわたって品川駅東口～東京レポート駅という運行が多くなった。これは海底トンネルを渡って13号地の出入口を出るとすぐに東京レポート駅で終点となり、テレコムセンター等を無視するものであった。船の科学館輸送は完全にゆりかもめに任せるという意志か。この時期より品川駅東口～豊洲駅という運行も誕生しているのも面白い。



④では同時に路線形態の変更が行われ、東京レポート駅を出ると台場駅・テレコムセンター駅をぐるりと回って青海流通センターまで行くようになった。東京レポート駅～台場駅の間は、この路線のみが走ることとなった。⑤の新設により、(旧)フェリー埠頭入口停留所を発着する路線がカバーされた。さすがに本当のフェリー埠頭入口にも停車するため、有明クリーンセンターと改称された。片方向なのは相変わらずである。

## 8. なつかしの台場循環（平成9年～11年）

結局この設定では不評だったということなのか、1年と少し経った平成9年7月に大幅なテコ入れが入れられた。門前仲町～東京レポート駅の折返は本線と同じくテレコムセンターを經由するように、また品川駅～東京レポート駅の折返に関しては、[海01乙]と同じように、海底トンネルを出た後、台場駅・テレコムセンター駅・東京レポート駅と左回りに循環して品川駅東口へと戻る、通称「台場循環」へと変化した。これにより、昼間の通し運行は完全に消滅した。



▲平成10年3月の路線図  
 これにより、長らく停車が続いてきた13号地海底トンネル入口停留所は廃止された。現在でも、フジテレビ南口と名を変えて京急バスが停車しているが、R357上の潮風公園入口については、亡霊のようにバス停と休止のお知らせが残っている。

## 9. そして簡略化へ（平成11年～）

昼間は双方で東京レポート駅折り返しになっていた[海01]。いずれの折返線もテレコムセンター一駅まで回れるようにという配慮であるが、台場循環は路線設定に問題があるのか、いつ乗っても客が少ない状態だった。結局この区間の需要を維持する必要はないということか、平成11年1月



のダイヤ改正であっけなく台場循環は廃止され、品川営業所はついに[海01]から撤退した。品川駅東口～東京テレポート駅の区間を走るのは本線直通の朝夕のみの運転になってしまった。

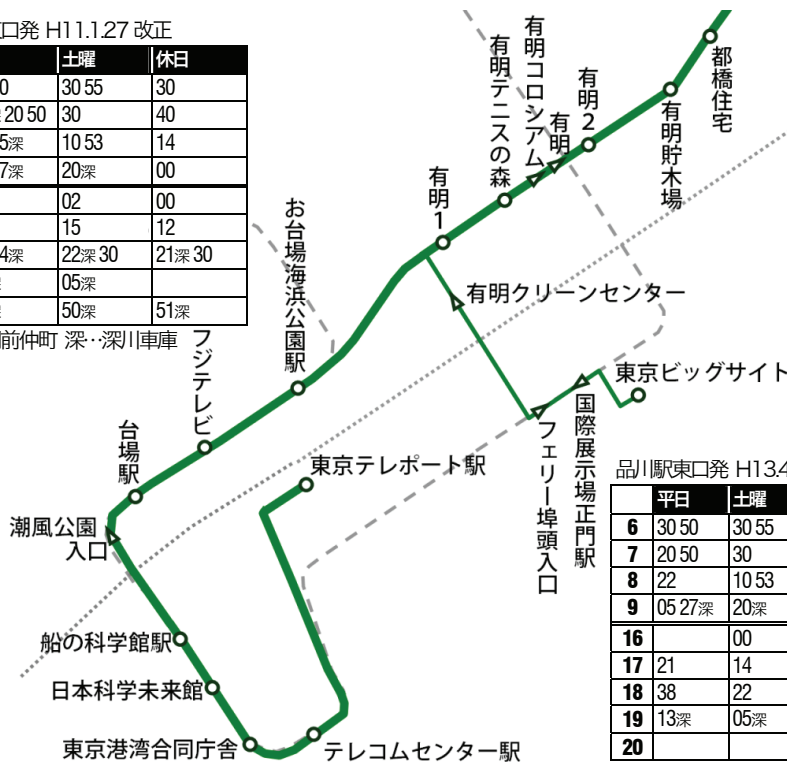
その後も品川側は路線の縮小が続く。その間には企業送迎バスの充実でもあったのか平成13年3月限りで[海01乙]が廃止されるという出来事もあった。[海01]の本線もダイヤ改正のたびに少しずつ本数が減っていき、ついに平成14年12月のりんかい線全通による改編で品川駅東口発着の系統は全廃され、下図のように相当シンプルな形態になった。

これにより、[海01]開業時のオリジナルな区間は失われたのだが、近年のゆりかもめ豊洲延伸でも客足は思ったよりも衰えず、また東京テレポート駅発着の本線は増便が行われている。停留所も増設（平成12年9月に東京港湾合同庁舎、平成18年6月に日本科学未来館）され、今後とも基幹路線としての活躍が続きそうだ。

品川駅東口発 H11.1.27 改正

	平日	土曜	休日
6	30 50	30 55	30
7	10 深 20 50	30	40
8	22 35 深	10 53	14
9	05 27 深	20 深	00
16	15	02	00
17	21	15	12
18	30 44 深	22 深 30	21 深 30
19	13 深	05 深	
20	50 深	50 深	51 深

無印・門前仲町 深・深川車庫



品川駅東口発 H13.4.1 改正

	平日	土曜	休日
6	30 50	30 55	30
7	20 50	30	40
8	22	10 53	14
9	05 27 深	20 深	00 深
16		00	00
17	21	14	12
18	38	22	22
19	13 深	05 深	
20			

無印・門前仲町 深・深川車庫

▲平成18年11月の路線図